

いなむら市長の「い~なこの街 尼崎」 4月

テーマ：市長の活動日記から紹介（気仙沼市の中学生との交流、要援護高齢者等見守り事業の協力に関する協定、ロボカップジュニアオープン2012尼崎について）

DJ(林)

さて、今回は新しい年度に入って初めての放送ですね。

市長

はい、私もまた気持ち新たに頑張りたいと思っています。

DJ(林)

電車に乗ったり街を歩いたりしていると、新品の学生服やスーツを着た方などをたくさん見かけ、新しい年度のスタートを感じますよね。

市長

本当ですね。尼崎市でも4月から新年度のスタートを切り、111人の新しい職員を迎えるとともに、組織も大幅に新たにしたところなんです。

DJ(林)

そうなんですか。今年度も市長はお忙しくなりそうですね。

市長

はい、このラジオをお聞きの方も、これまでと環境が変わって新しいステージに進むんだ、という方も多いと思うんですけども、この春から入学や入社をされた皆さん、また人事異動で新しい環境になった皆さんにも、新しく始まった新生活を楽しむ気持ちを持って、一生懸命頑張っていたきたいなと思います。

DJ(林)

尼崎市のホームページには、「市長の活動日記」というページがあって、市長のお仕事ぶりが色々と掲載されていますけれども、今回はこれらの中からいくつかお話を伺いたいと思います。まず、3月26日に、気仙沼市の中学生の皆さんが尼崎に来られたそうですね？その時の様子をお話いただけますか？

市長

はい。知って下さっている方も多いかと思うんですけども、尼崎市は東日本大震災の被災地を応援するにあたって、宮城県気仙沼市をパートナーとして応援していくということで、協定を結ばせてもらっています。職員を派遣したり、民間ベースでも気仙沼市との交流がたくさん広がっているところなんですけれども、そういった取組の一環として3月24日から4日間、気仙沼の市立中学校3校の野球部の部員のみんなが約30人、尼崎市に来てくれました。私達のほうで招待をさせていただきました。

と言いますのも、教育委員会のほうから気仙沼市の学校にも応援に行かせていただいたんですけれど

も、そこでお手伝いに行った先生が、やはり被災地、特に気仙沼市では学校のグラウンドに仮設住宅が建てられているため、十分なクラブ活動ですとか、野球の試合をしたりということができない状況だということを知りまして、それなら是非尼崎市で久しぶりに思う存分野球を楽しんでもらいたいと計画をされました。

26日に市役所東側の橘公園軟式野球場と、中央中学校のグラウンドで尼崎の市立中学校4校と、気仙沼の野球部員の交流試合を行いました。私も試合を見に行かせてもらったんですけども、実は、私ね、尼崎市の地元の中学生を応援したいという気持ちと、久しぶりに野球をやってる気仙沼のみんなを応援したいという気持ちと、ちょっと引き裂かれながら試合を見てたんですけども、結果は、実は尼崎市が逆転負けをしてしまいまして、でも途中まではリードしてたんですよ。とってもいい試合でした。

試合の後は、交流試合をやった1つである、武庫中学校でみんなでたこ焼き作りを楽しんでくれたそうです。また、地域の保護者の方にもお声をかけて、引率で来てくださった気仙沼の先生に防災面の講演をお願いしたり、尼崎市の防災についてもお話を聴く大変いい機会になったかなというふうに思います。

DJ(林)

そうですね。気仙沼の生徒の皆さんにとっても尼崎の中学生の皆さんにとってもより良い交流となりましたね。

さて、次は3月29日の「要援護高齢者等見守り事業の協力に関する協定の締結」についてお話いただきたいんですけども、そもそも、この「要援護高齢者等見守り事業」とは、どういったものなんでしょうか？

市長

はい、これは尼崎市の社会福祉協議会に委託をして実施をしている事業なんですけれども、各地域の皆さんに協力をしていただいて、地域の高齢者を地域で見守っていかうというものです。

特に昨今はお年寄りが孤独死をしているということが発見されたり、振り込め詐欺の被害にあったりと、痛ましいようなニュースが非常に増えています。尼崎市でも当然高齢化が進んでいますし、特徴としてはやはり単身で暮らしてらっしゃる高齢者の方が多いということがあるんですね。数年後には4人に1人が65歳以上の高齢者になっていく社会と言われていています。

そこで地域の民生児童委員さん、そして社会福祉協会のみなさん、老人クラブや婦人会そしてボランティアの皆さんなど多くの方々にご協力をいただいて、見守り協力員という形で、私市長から委嘱をさせていただくんですね。そして、そういった方達が地域の高齢者、見守りを希望された方に対して、週に1回程度、例えば洗濯物が干しっぱなしになってないかとか、新聞がたまっていないかとか、気になることがないか見守りをさせていただいたり、2週間に1回程度、声掛けをしていただくというような内容なんです。

これまでそういったことは地域の中で自然にされてきたと思うんですけども、やっぱり今は個人情報とか、いろいろ難しいことが言われる時代にもなりました。そこで、尼崎市から委嘱をさせていただいた推進委員さんや協力委員さんに活動していただくということでスムーズにこういった地域の活動が充実されればなというふうに思っています。

DJ(林)

そうですね。見守ってくださっている方も地域の方ですからね、活動が続けられていく中で顔の見える信頼関係が築かれて、より高齢者やそのご家族の方は安心できますよね。

では、今回新たに締結したものは、どういったものなのでしょうか？

市長

はい、これは先ほどお話しました地域の方々の活動に加えまして、新たに新聞や牛乳の販売店さんにも協定を結ばせていただいてご協力をいただくという取組なんです。

こういった販売店の皆さんもこれまでにもいろいろなことを気をつけてご協力はいただいていたわけですが、日々の配達の中で改めて新聞や牛乳がたまりっぱなしになっていないか、そういったことを気に掛けていただいて、異変があれば市役所の高齢介護課に連絡をいただくことになってます。また、ご協力をいただいたお店に、こういった協力店のステッカーをお配りをして貼っていただくようにするんですけども、そういったことを通じて、ああこういう取組が進んでるんだなという安心感が地域の中に広がればなというふうにも思っています。

今回、日本新聞販売協会近畿地区阪神支部の加盟店 71 店、そして県の牛乳商業組合尼崎市部の加盟店 21 店舗と協定を結ばせていただきました。

DJ(林)

なるほどね。新聞や牛乳など、毎日配達してくれる方が気にかけてくださると、これまで以上の安心感がありますよね。尼崎市が、より安心して暮らせる町になりますね。

では、最後にもう 1 つ、3 月 30 日、31 日に行われました、「ロボカップジュニアジャパンオープン 2012 尼崎」についてもお話いただきたいと思います。実は、このロボカップは F Mai ai も参加していて、当日の司会や音響などを担当させていただきました。

市長

そうでした。このロボカップは世界大会も行われているような大きな大会なんですけれども、今回は尼崎商工会議所が、ものづくりのまち尼崎を PR するため 100 周年記念事業の一環としてこの全国大会を誘致してくださいました。

これは、コンピュータのプログラミングをやってロボットを動かすということの技術ですとか、そのプログラミングの中身を競うんですけども、種目が、サッカー部門、ダンス部門、そして人間は入れないんだけど様子を見に行きたいというようなレスキューの部門というこの 3 種目がありまして、尼崎市からは地元の特別枠を勝ち抜いた 6 チームがサッカーの部門で出場をしました。このサッカー部門は、赤外線を出すボールを追いかけるようにプログラムされたロボットが 2 対 2 で通常のサッカーのようにゴールを奪い合うんです。

尼崎の特別枠で出場した 6 チームは、まだまだ他のチームと比べると経験が浅かったんですけども、この全国大会の誘致が決まった後に少しずついろいろなトレーニングを重ねて今回の大会に臨みました。そのうち、5 チームが予選を勝ち抜いて決勝に進出をして、6 月にメキシコで行われる世界大会には残念ながら、その切符を手に入れることはできなかったんですけども、総合 5 位に入賞したチームもありまして、本当に大活躍でした。

今、商工会議所の皆さんとも是非これを単年度で終わらせるのではなくて、これから続いて尼崎市の子ども達がこういったプログラミングなどに興味を持って取り組めるようにこれからも継続をしていきたいな、取組は続けていきたいなというふうに話をしています。

DJ(林)

そうですね。こういったことがきっかけで将来素晴らしいエンジニアが育っていったら嬉しいですね。

市長

本当にそう思います。開会式に参加させていただいたんですけども、選手宣誓がすごくおもしろくて、ロボットもみんな手作りでやってますので、『私たちとロボットは、例えバッテリーが切れても、部品が落ちてしまっても、最後まで諦めずに戦うことを誓います。』というような選手宣誓で、おもしろかったですね。

こういった、商工会議所の方が誘致をして実現したロボカップ、また地域の皆さんや販売店の皆さんの協力によって成り立っている高齢者の見守り事業、そして、気仙沼市被災地への支援事業、本当にどれをとっても行政だけでできるものではなくて、市民の皆さん、そして企業の皆さんと一緒にやっていかなければいけない、そういったご協力のもとで成立してるということ、本当に強く感じます。

尼崎市ではこれからもそういった多くの皆さんにご協力をいただきながら、私達がそういったコーディネート役やファシリテート役をやりながら、様々な事業を皆さんと一緒に進めていきたいというふうに思っています。

DJ(林)

本当ですね。それでは稲村市長、本日もありがとうございました。

市長

はい、ありがとうございました。